

# 公益社団法人日本薬剤学会 2018 年度事業計画

(2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで)

## はじめに

1985 年に任意団体として設立された本学会は、2015 年に創立 30 周年の節目の年を迎えた。この間、2006 年に文部科学大臣より社団法人としての設立認可を 2012 年には内閣総理大臣より公益社団法人としての移行認定を受け、科学の発展とともに社会貢献を目指した活動を行うことが求められている。本学会の事業は定款に定める以下の各事業を総称して「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発、研究の振興、調査研究並びに評価により、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」として認定を受けており、理事会は別紙に詳述するこれらの事業を、公益法人としてのガバナンス体制の下に実施する。

- (1) 学術集会、研修会、講習会等の開催
- (2) 機関誌、学術雑誌、その他出版物の刊行
- (3) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (4) 国内外の関連学協会等との連絡及び協力
- (5) 研究及び調査
- (6) 薬剤学に関する学識及び技術等の認定
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 基本方針

- 1 公益社団法人へ移行後丸 6 年を経過し、今年度は特に財務面、ガバナンス面での確固たる体制の整備に注力するとともに、新たに発足した代議員制の定着を図る。
- 2 日本の薬剤学に関するサイエンスレベルの向上を図るとともに、新規医薬品の開発および医療現場における医薬品の適正使用への取り組みを推進する。
- 3 医学・工学をはじめとする関連諸領域との連携をより緊密なものとし、学際的な研究協力を推進することによって、製剤・DDS 等における新しい技術開発に積極的に参画する。
- 4 産官学一体となった活動を通じ、医薬品の有効性と安全性を担保するための規制上の問題に関して公益的な立場から提言を行う。
- 5 薬剤師の職能の向上を目指して、国際標準的な医薬分業を推進する。
- 6 学会活動の国際化を目指して、FIP (International Pharmaceutical Federation, 国際薬学連合) などの国際学会および他国の薬剤学関連の学会との協力体制を構築する。
- 7 薬剤学の知識・技術を基盤として、機能性食品や化粧品などの開発、適正使用への取り組みを支援する。
- 8 2010 年度より発足した製剤技師認定制度の社会的認知度を向上させるとともに、各企業への製剤技術の普及・伝承に注力する。
- 9 共通の研究目的等による分野横断的なユニットであるフォーカスグループによる活動を強化する。

## 公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

### 会長

- 1 APSTJ 2025 推進事業
  - 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行う。
  - 日本学術会議が大型研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行う。
  - 国内外の関連学協会との交流事業を推進する。
- 2 国際標準医薬分業推進事業
  - 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進する。

### 副会長総務担当理事

- 1 学会賞等表彰事業
  - 学会賞選考委員会
  - タケル&アヤ・ヒグチ記念各賞選考委員会
  - 永井記念国際女性科学者賞選考委員会
- 1.1 薬師メダル  
薬剤学分野の科学・技術と薬剤師職能を統合化したシステム薬剤学に関して，卓抜した業績を有する者を理事会の推薦により表彰する。
- 1.2 学会賞  
薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績を有する者を表彰する。
- 1.3 功績賞  
本学会の運営・発展への貢献，薬剤学教育への貢献，薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の振興への貢献を行った者を表彰する。
- 1.4 奨励賞  
薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の基礎及び応用に関し，独創的な研究業績を挙げつつあり，これらの分野の将来を担うことが期待される若手研究者を表彰する。
- 1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞（西暦偶数年度に実施）  
故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上並びに医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびに故アヤ夫人の功を記念し，同記念荣誉講演の講師を表彰する。
- 1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞（西暦奇数年度に実施）  
薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上，医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げ，受賞を励みにして更なる活躍が期待される者を表彰する。
- 1.7 永井記念国際女性科学者賞  
薬剤学領域において顕著な業績を挙げ将来も顕著な業績を上げることが期待される，国内外の現職の女性科学者を表彰する。
- 1.8 創剤特別賞  
国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤を創成した者を臨時に表彰する。
- 1.9 優秀論文賞（西暦奇数年度に実施）  
機関誌「薬剤学」および公式欧文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"に掲載された優秀な論文の著者を表彰する。
- 1.10 製剤の達人称号  
医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，高い技術を確立した者を表彰する。
- 1.11 国際フェロー称号  
薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員，本学会の国際賞を受賞した外国人研究者等を表彰する。
- 1.12 「薬と健康の週間」懸賞論文  
「薬と健康の週間」への協賛として，薬学を学んでいる若い学生を対象に与えられたテーマについての論文を広く募集し，優秀な論文の著者を表彰する。
- 2 創剤開発・研究賞表彰事業
  - 旭化成各賞選考委員会

## 2.1 旭化成創剤開発技術賞

国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰する。

## 2.2 旭化成創剤研究奨励賞

製剤の機能化、最適な投与方法とそれに合った剤形開発、製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献した者を対象として表彰する。

## 渉外担当理事

### 1 学生主催シンポジウム事業

#### - SNPEE2018 実行委員会

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と、口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として、年会において学生主催シンポジウム「SNPEE2018\*」（「The Passion ～SNPEE が生み出す相互作用に情熱を！～」）を開催する。公募制にて学生演者を募集し、3名の学生演者には、自身の研究を広い視点に立って今一度顧み、その魅力を聴衆に十分に伝えるチャンスとして、この場を提供する。また特別講演の先生をお招きし、本シンポジウムの講評と将来の薬剤学を担う若手研究者に向けてのメッセージをいただく。

\*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution

### 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る。また、毎月ニューズメールを配信し、イベント情報や最新情報を会員に届ける。編集委員会と協力しながら、オンライン化された「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信を行う。

### 3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、年会において「医薬品包装シンポジウム」（「サステナブル社会の実現に向け医薬品包装が直面している課題 ～偽薬／流通／アドヒアランス～」）を開催する。

### 4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行うほか、教育資料の企画、年会における「薬学教育シンポジウム」（「次世代の薬剤学教育者を求む」）を企画実行する。

## 国際連携担当理事

### 1 英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者または英語教育専門家等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で企画する。

### 2 国際学会等協力事業

#### - FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting で重要事項を審議する他、Section/SIG にメンバーを多数派遣する等、BPS の諸活動に積極的に参画する。また、FIP Education に Delegate を派遣する。

#### - AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS の Member Organization として、Executive Committee に役員を派遣する等、アジア地域における薬科学研究の発展に寄与する。次回 AFPS Conference は次年度 2019 年開催予定。

#### - 日韓合同薬剤学若手研究会

日韓合同薬剤学若手研究会に講演者を派遣する。

## 機関誌担当理事

### 1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行う。2017 年度に行った会員アンケートに基づき「薬剤学」の記事の充実およびオンライン使用性の改善を図る。

### 2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と、優秀論文賞の選考を行う。

### 3 学会誌出版事業

### 3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行する。なお、「薬剤学」誌は1号のみ冊子体で発行し、2～6号はweb配信（J-STAGEでの閲覧）のみとする。

- Vol. 78 No. 3 2018年5月1日発行
- Vol. 78 No. 4 2018年7月1日発行
- Vol. 78 No. 5 2018年9月1日発行
- Vol. 78 No. 6 2018年11月1日発行
- Vol. 79 No. 1 2019年1月1日発行
- Vol. 79 No. 2 2019年3月1日発行

英文論文の受け付けも可能であり、積極的に英文投稿の促進を図る。

### 3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

Vol. 44 (2018年4月)～Vol. 49 (2019年2月)の計6巻を隔月オンライン発行する。

## 技術・書籍担当理事

### 1 製剤技術伝承講習会事業

#### - 製剤技術伝承委員会

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により、滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため、座学・実習の講習会を企画運営する。今期の開催予定は次のとおり。

#### 1.1 製剤技師の会（薬剤学会認定製剤技師による研修会）

第33年会（6月30日13:30～、2F映像ホール）

#### 1.2 第23回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「経口製剤の製剤設計と製造法」

2018年6月7、8日-7月12,13日（前編）大阪大谷大学阿倍野ハルカスキャンパス、（後編）名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

#### 1.3 第15回製剤技術伝承実習講習会

「原薬の物性測定」（仮題）

2018年8月30日-31日

星薬科大学

#### 1.4 第16回製剤技術伝承実習講習会

「難溶性薬物の製剤設計」

2018年9月20日-.21日

大川原化工機（株）

静岡県立大学薬学部 創剤工学講座

#### 1.5 第24回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「非経口製剤の製剤設計と製造法」

2019年1-2月を予定

会場未定

### 2 製剤技師認定事業

#### - 製剤技師認定委員会

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で、日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する。過去8回で約190名の認定者が誕生しているが、まだまだ大手製薬会社からの受験が少ないため、引き続き方策を模索していく。また、被認定者の学会への入会を推進するとともに、これら認定製剤技師の企業内での職能・役割アップについて相互研鑽を図れる機会の提供を検討していく。

#### 2.1 第9回製剤技師認定試験

2018年10月20日

慶應義塾大学芝共立キャンパス／神戸薬科大学（予定）

### 3 出版委員会事業

#### - 出版委員会

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行う。

#### 3.1 薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動をベースとしたシリーズ書籍として「固体医薬品の物性評価 2018（仮）」（監修：日本薬剤学会 物性FG）および「医薬品開発の現状と展望—前臨床開発FG×経口吸収FG合同合宿討論会記念出版（仮）」（監修：日本薬剤学会 前臨床開発/経口吸収FG）の2018年度中の発刊を予定。

#### 3.2 引き続き、薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを総論的にまとめたシリーズ書籍、および薬剤学専門用語集の企画出版を計画する。

## 製剤・創剤セミナー担当理事

### 1 製剤・創剤セミナー事業

#### - 製剤・創剤セミナー実行委員会

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い、医療・薬剤学に関し、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」の企画運営を行う。

会場を従来の淡路夢舞台から三浦半島の葉山に替えるとともに、本年度から学生企画プログラムを新たに発足させ、本セミナー事業の一つの柱として育てていく。

#### 1.1 第43回製剤・創剤セミナー

『医の心と最新技術のハーモナイゼーション -患者のための製剤・創剤-』

2017年8月23-24日を予定

湘南国際村センター（神奈川県葉山）

## 公開市民講演会事業担当理事

### 1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画・開催する。

今期の開催予定は次のとおり。

2018年9月25日(火)（世界薬剤師の日） 夕刻

場所：未定

## FG担当理事

### 1 FG統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として、事業・予算の管理を行い、各FGに対する助言やFG・理事会間のリエゾンを担当する。

FG統括委員会では各FGの活動状況を確認し、継続・廃止などの審議を行うが、今回、2015年度から3年間の全FGについて審議を行い、下記3つのFGについては一応の役割を終えたとの当該FGからの報告に基づき廃止すること、また、新たに「超分子薬剤学FG」設置することが決定された。

廃止FG：がん治療FG，粉体プロセスFGおよびモデリング&シミュレーションFG

新設FG：超分子薬剤学FG

#### - 【経口吸収FG】

経口吸収に関わる生体膜機能，吸収機構，体内動態，製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し，新たな経口吸収研究を開拓する．今期は，年会にてラウンドテーブルを開催する．また例年通りに合宿討論会を予定．さらに他学会でのシンポジウム応募等にも積極的に関与する．

#### - 【経皮投与製剤FG】

化粧品，医薬品，生活化成品，素材メーカー，大学研究者など様々な分野の研究者を集め，経皮投与製剤の理論と実際を検討し，経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図る．他学会との合同シンポジウムを模索する．FGとしての活動が10年となるので，記念シンポジウムを11月に都内で開催予定．

#### - 【経肺経鼻投与製剤FG】

第十七改正日本薬局方第一追補に新しく収載された吸入剤の一般試験法に基づき，吸入剤の吸入特性評価，吸入剤開発の基礎研究，製薬会社における吸入剤開発の実例，吸入剤治療に関する臨床現場での問題点について情報交換を行う．12月ころ研究会を予定．

#### - 【核酸・遺伝子医薬FG】

核酸医薬デリバリー技術の標準化に関するラウンドテーブルでの議論の成果をもとに，核酸医薬および遺伝子医薬に対するデリバリー製剤の標準化に関する議論を進める．その一環として，微粒子製剤の物性測定方法の「標準化」に向けて共通試薬を用いた評価を引き続き行い，その結果を年会等で報告する．また，DDS製剤臨床応用FGと合同で，核酸・遺伝子医薬を対象とするレギュラトリーサイエンスおよびデリバリー戦略についてのラウンドテーブル，シンポジウム等を企画する．

#### - 【薬物相互作用FG】

「薬物相互作用FG」から「薬物相互作用・個別化医療FG」と改称し，創薬研究者（基礎・臨床開発）・臨床薬剤師・審査サイドなど種々の立場から広く意見を求め，交流する場を提供

する。そのためにまず本 FG の今後の活動を 2018 年 5 月に開催予定の第 33 年会のラウンドテーブルで議論する。薬剤学会ないし FG 登録メンバーのみならず、国内の他学会のメンバーとの交流も積極的に行うため、共催シンポジウム（日本医療薬学会年会，医療薬学フォーラム，その他医学関係学会，基礎薬学関係学会等）の開催を継続的に行う。

- **【医療 ZD と完全分業 FG】**

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指す。

- **【DDS 製剤臨床応用 FG】**

年会において核酸・遺伝子医薬 FG とラウンドテーブル（応募申請中）を共同開催し，核酸・遺伝子医薬の実用化を加速するレギュラトリーサイエンスとデリバリー戦略について議論する。第 34 回日本 DDS 学会（6 月 21, 22 日開催）において、ジョイントシンポジウムを開催する。また，メンバーの様々な経験や知識を共有化するため，合宿討論会（場所：帝京大学箱根セミナーハウス，日程：10 月予定）を開催し，議論を深める。

- **【個別化製剤 FG】**

患者が個別に抱える薬剤に対する課題および医療現場における薬剤の使われ方や安定性の問題など，リアルワールドでの課題を検証し，その重要性を明らかにする。抽出された課題を解決するための技術開発ならびに必要な情報を創出する仕組みを併せて検討する。具体的には，患者や医療者から薬剤に対する意見を聞ける研修会を企画する。また，産学コンソーシアムを通して小児用製剤の基盤技術を整備する。さらに，研究会・勉強会の開催を通して，課題共有および解決のための枠組みを提案する。

- **【物性 FG】**

医薬品原薬、製剤原材料ならびに製剤の物性評価技術にフォーカスをあて，技術の発展や創薬/創剤への展開についての議論・提言を行う。今年度は、X 線分析に関するセミナーを開催する。さらに、若手研究者の研修・啓発・育成のために、物性に関する伝承実習講習会のサポートを行う。また、講習会用テキスト、「固体医薬品の物性評価 2018」を監修する。

- **【臨床製剤 FG】**

薬学会第 138 年会の臨床製剤関係シンポジウムの支援，他の FG との合同セミナー，FG のメンバーでの集合研修や院内製剤に関する病院薬剤師向けのセミナーの開催を企画し，臨床製剤の調製の実際について，作業効率，安定性，使用しやすいデバイス，包装形態など，これまでにない視点で臨床製剤の現状を明らかにする。これらの活動を通して臨床製剤 FG の活動を広報するとともに、個別化医療を支援する新規な臨床製剤開発を目指す。

- **【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】**

2018 年度は，過去の活動の中で実施したアンケート調査・実習講習会・講演会を基に，QbD 実践の普及に必要な科学的・技術的な課題の議論を通じて，アンサー・ソリューション・アイデアを提供する。具体的には，アンケート調査を基にした QbD 実践に関する成果物の作成に取り組むとともに，QbD 普及に向けて講演会又は講習会を行う。

- **【前臨床開発 FG】**

前臨床開発に関わる諸問題，例えば原薬形態の効率的な決定法，生物薬剤学的評価方法，加速試験が困難な製剤の判断法，安全性試験の製剤設計，FIH から POC までの臨床試験用製剤の開発などをテーマとして，タイムラインやリスクマネジメントのビジネス視点を中心とした議論を行う。2018 年度は第 3 回討論会の開催を予定している。近未来の医薬品開発エコシステムにインパクトのあるアウトプットを目指したい。

- **【超分子薬剤学 FG】**

超分子とは，複数の分子が共有結合以外の結合により，秩序だって集合した分子のことをいい，薬剤学領域でもリポソーム，多糖類，アルブミンなど多数存在する。学問としての「超分子化学」はこれまで理工学領域主体であったが，「超分子化学」と「薬剤学」との融合による「超分子薬剤学」を立ち上げ，次世代の薬剤学を創製することを目的に活動していく。

## 2 製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

製剤種差検討会に入会した会員（団体）が製剤設計における種差の問題に関する経験事例の報告を行い、種差が影響する要因について討論し整理することを目的として、2018年度も年3回（京都地区、東京地区交互）を目処に事例報告会を開催する。また、大きな財産となりつつある質問箱（現在130件の質問）&コメント・回答集の充実を図る。更に、団体会員数（2018年3月現在54団体）の増加を図るとともに、本検討会の将来的な展開方法（分科会の設置、公的資金の獲得等）について世話人会を中心に議論を進める。

## 制度改革担当理事

### 1 制度改革担当事業（制度改革委員会）

- 公益社団法人として、持続性のある主体的なあるべき制度に整える。  
公益社団法人として主体的で統制された本学会の運営体制を目指し、事務専任人材の補填だけでなく、理事会が学会事務局と業務委託先（学会支援機構、公認会計士）を統括管理できる運営体制を検討する。体制構築後は、四半期ごとに検証する。

## 年会長

### 1 年会事業

- 年会組織委員会  
本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う。年会では、口頭またはポスターによる研究発表、特別講演、招待講演、各種受賞講演、各種シンポジウム、ランチョンセミナー、企業展示会等の多種多様なプログラムを設けており、定時総会もこの会期中に併催される。また、各FGから提案されたテーマを含めてラウンドテーブルセッション形式での討論を行う。今期の開催予定は次のとおり。

#### 1.1 第33年会

「患者ベネフィットに貢献するサステナブル(Sustainable) 薬剤学」

2018年5月30-6月1日

静岡コンベンションアーツセンター グランシップ

#### 1.2 第34年会

2019年5月 富山にて開催予定

## 学会運営

### 1 理事会

学会の業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行う機関であり、全ての理事で組織される。法人のガバナンスを担う中心的な機関である。今期の開催予定は以下のとおり。

第1回理事会 2018年4月頃

第2回理事会 2018年5月頃

第3回理事会 2018年9月頃

第4回理事会 2019年1月頃

### 2 代議員総会（定時総会）

従来までの評議員が廃止され、2018年度より正会員の選考により新たに代議員が選任された。この代議員による総会は、定時総会として社員総会に位置付けられ、正会員で構成される学会の最高の決議機関である。今期の各開催予定は以下のとおり。

2.1 定時総会 2018年5月30日

静岡コンベンションアーツセンター グランシップ

以上

## (参考) 事業別収支(損益ベース)一覧

2018年4月1日から2019年3月31日まで

公益目的事業	経常収益計	経常費用計	当期計上増減額
APSTJ 2025推進事業	0	100,000	-100,000
国際標準医薬分業事業	0	0	0
学会賞等表彰事業	650,000	2,640,000	-1,990,000
創剤開発・研究賞表彰事業	1,500,000	1,500,000	0
広報委員会事業	0	16,000	-16,000
医薬品の包装と情報分科会事業	0	163,820	-163,820
教育分科会事業	0	104,090	-104,090
学生シンポジウム事業	0	43,100	-43,100
国際学会等協力事業	0	2,500,000	-2,500,000
英語セミナー	90,000	600,526	-510,526
機関誌出版事業	320,000	7,275,000	-6,955,000
「薬剤学」編集委員会事業	0	360,240	-360,240
投稿論文審査委員会事業	0	0	0
出版委員会事業	0	0	0
製剤技術伝承講習会事業	9,538,000	5,808,500	3,729,500
製剤技師認定事業	1,330,000	863,000	467,000
製剤・創剤セミナー事業	8,125,000	7,942,225	182,775
FG統括委員会事業	5,110,000	5,049,470	60,530
公開市民講演会事業	0	306,700	-306,700
製剤種差の問題検討会	960,000	886,000	74,000
制度改革担当事業	0	510,000	-510,000
年会事業	32,070,000	32,245,000	-175,000
共通	11,630,000	9,945,000	1,685,000
小計	71,323,000	78,858,671	-7,535,671
法人会計	12,012,654	11,355,000	657,654
合計	83,335,654	90,213,671	-6,878,017



収支予算書(損益計算ベース)  
2018年4月1日から2019年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	100,000	100,000
基本財産受取利息	0	100,000	100,000
特定資産運用益	150,000	0	150,000
特定資産受取利息	150,000	0	150,000
受取会費	11,630,000	11,630,000	23,260,000
正会員	6,500,000	6,500,000	13,000,000
学生会員	850,000	850,000	1,700,000
賛助会員	4,280,000	4,280,000	8,560,000
事業収益	59,543,000	0	59,543,000
学術集会・委員会等事業収益	55,893,000	0	55,893,000
参加費	28,808,000	0	28,808,000
意見交換会費	5,420,000	0	5,420,000
助成金・補助金	850,000	0	850,000
寄付金・協賛金	5,025,000	0	5,025,000
セミナー共催金	3,888,000	0	3,888,000
広告料	864,000	0	864,000
出展料	11,038,000	0	11,038,000
学会誌等出版事業収益	320,000	0	320,000
購読料	150,000	0	150,000
投稿料・別刷料	60,000	0	60,000
許諾料・使用料	60,000	0	60,000
広告料	50,000	0	50,000
学会賞等表彰事業収益	2,000,000	0	2,000,000
助成金・補助金	0	0	0
寄付金・協賛金	500,000	0	500,000
指定正味財産からの振替	1,500,000	0	1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,330,000	0	1,330,000
受験料	870,000	0	870,000
認定料	460,000	0	460,000
雑収益	0	282,654	282,654
雑収益	0	282,550	282,550
受取利息	0	104	104
経常収益計	71,323,000	12,012,654	83,335,654
(2) 経常費用			
事業費	78,858,671		78,858,671
給料手当	6,500,000		6,500,000
臨時雇入金	4,962,000		4,962,000
法定福利費	390,000		390,000
会場費	17,771,725		17,771,725
旅費交通費	6,406,000		6,406,000
会議費	2,430,260		2,430,260
意見交換会費	6,966,000		6,966,000
賞状・賞牌・副賞費	3,191,500		3,191,500
通信運搬費	887,000		887,000
ウェブサイト管理費	2,411,780		2,411,780
消耗品費	744,293		744,293
印刷製本費	9,741,000		9,741,000
貸借料	1,817,000		1,817,000
保管料	250,000		250,000
諸謝金	5,455,000		5,455,000
租税公課	610,613		610,613
支払負担金	1,705,000		1,705,000
業務委託費	5,704,000		5,704,000
公認会計士報酬	216,000		216,000
雑費	699,500		699,500
管理費		11,355,000	11,355,000
給料手当		3,500,000	3,500,000
法定福利費		210,000	210,000
旅費交通費		1,080,000	1,080,000
会議費		1,000,000	1,000,000
通信運搬費		800,000	800,000
ウェブサイト管理費		105,000	105,000
消耗品費		700,000	700,000
印刷製本費		500,000	500,000
貸借料		560,000	560,000
租税公課		600,000	600,000
業務委託費		700,000	700,000
公認会計士報酬		1,200,000	1,200,000
雑費		400,000	400,000
経常費用計	78,858,671	11,355,000	90,213,671
当期経常増減額	-7,535,671	657,654	-6,878,017
当期一般正味財産増減額	-7,535,671	657,654	-6,878,017
一般正味財産期首残高	46,908,975	16,202,196	63,111,171
一般正味財産期末残高	39,373,304	16,859,850	56,233,154
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金・助成金	1,500,000	0	1,500,000
一般正味財産への振替額	-1,500,000	0	-1,500,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	786,862	20,000,000	20,786,862
指定正味財産期末残高	786,862	20,000,000	20,786,862
III 正味財産期末残高	40,160,166	36,859,850	77,020,016